

五雲会

平成三十一年二月十六日(土)
開演 午後十二時(正午)
開場 午後十一時
於 宝生能楽堂

演目の解説

能「西王母」(せいおうぼ)
周の穆王の時代の都、人々が平和な御代をたたえている時に、桃の枝を肩にした美しい女が皇帝の前に現れます。女は、これは三千年に一度だけ咲き実生る桃で、今めでたいこの御代にこそ誠に相応しい物と皇帝に捧げ、我が身は西王母の分身であると名乗り、今度は桃の実を捧げましようかと去って行きます。その後、侍女に桃の実を持たせた西王母が現れ、皇帝にその桃の実を捧げ、美しい舞を舞います。

狂言「鐘の音」(かねのね)

主人は成人した息子に黄金(こがね)造(づく)りの太刀を作つてやろうと、太郎冠者に鎌倉へ行つて「金(かね)かね」の値(ね)を聞いてこいと命じます。太郎冠者はこれを「鐘の音(かね)ね」と勘違いして、鎌倉の寺々をめぐる歩き、鐘楼堂の鐘をついて音色を聞き比べて帰宅します。さつそく主人に報告すると……。それぞれの鐘の音は演者が口で言い、その擬音語は巧みで様々に工夫されています。

鐘の音

野村拳之介

野村 萬

〱休憩十五分〱

13:10

花月

シテ小林 晋也

ワキ安田 登

大鼓 佃 良太郎
小鼓 曾和伊喜夫

笛 小野寺竜一

問 野村万之丞

後見 小林与志郎
高橋 亘

地謡

辰巳 和磨
川瀬 隆士
金森 良充
佐野 弘宜

渡邊 茂人
東川 光夫
佐野 尚史
東川 尚史

〱休憩十五分〱

14:55

船橋

ツレ朝倉 大輔
シテ内藤 飛能

ワキ御厨 誠吾

大鼓 大倉慶乃助
小鼓 鳥山 直也

太鼓 澤田 晃良
笛 熊本俊太郎

ワキツレ大日方 寛

問 能村 晶人

後見 金森 秀祥
野月 聡

地謡

上野 能寛
今井 基
金森 隆晋
當山 淳司

高橋 憲正
佐野 由於
金井 雄資
澤田 宏司

終演予定 午後四時十分頃

次回予告

平成三十一年三月十六日(土)
正午 始

簾 川瀬 隆士

祇 王 東川 尚史

海 人 小倉健太郎

能「花月」(かけつ)
行方知れずになつたわが子を訪ね、諸国をめぐる僧が清水寺を訪れます。そこで人々に人気の「花月」という少年に会います。少年は都に流行の小歌を歌い、手にした弓矢で鶯を狙いますが、人々に殺生戒を思い出させて弓矢を捨て、更に清水寺の縁起を仕方話に舞つて見せます。その様子を見ていた僧はこの花月少年こそ我が子だと気が付きます。寺の男はびつくりしますが、顔が似ていると納得して名残りに鞆鼓を所望し、花月は鞆鼓の後に、天狗にさらわれ山々を巡つた様を舞つて見せ、僧と一緒に帰つて行きます。

能「船橋」(ふなぼし)
旅の山伏が上野の国佐野の船橋へやつて来ると、里の若い男女に会います。二人は橋の建立のために勸進をしています。た。謂れを尋ねられた二人は、昔この橋を通い路として逢引きをしていた男女があつたが、そのことを嫌う両親に橋げたを外され、男が落ちて死んだという物語を詳しく語り、夕闇の中へ去って行きます。その夜、供養をする山伏の前に成仏を願う女と、執心のために悪鬼となつた男が現れ、死んだ時の様子を再現し、成仏出来た事を喜び去って行きます。